

令和4年度 公民館主催事業計画書

令和3年度～5年度公民館事業計画における基本方針

- 1 開かれた公民館
- 2 問いかける公民館
- 3 地域とともに
- 4 地域の中につながりを

公運審提出日 令和4年11月16日

	実施館	事業名	基本方針	期間・回数	事業概要	主な講師等
1	柳沢	ムービールーム柳沢 特別企画 「カレーライスを一から作る」	1 2	令和5年1月18日 水曜日 ①14時から ②19時から 2回	・特別企画として2016年制作のドキュメンタリー「カレーライスを一から作る」を上映し、命や環境等について考えるきっかけとする。 ・午後2時の会の上映後、監督の解説や話を通して映画の趣旨をより深く理解できるようにする。 ・より多くの世代の方が来場できるように午後2時と午後7時からの2回上映する。	前田亜紀（監督、2001年からテレビ番組制作の仕事に携わる。NHK、毎日放送、フジテレビなどの多くのドキュメンタリー番組のディレクター）
2	柳沢	家族対象講座 ビジネス・子育てにも役立つ なりたいふたり（家族）になるためのコミュニケーション講座	1	令和5年1月29日 2月19日 日曜日 10時から12時 全2回	勤労層の夫婦を対象に、演劇的ワークショップを通して、他者とのコミュニケーションの在り方や身近な人との関係性を見直す機会とする。	奥田 満（劇作家、演出家） 奥田仁美（ダンサー、役者） 木村祐子（役者、翻訳家）
3	田無	趣味の講座 第1弾 ウクライナのエッグアート 「ピサンキ」を作ろう	1	令和5年2月10日 2月17日 2月24日 金曜日 14時から16時30分 全3回	ウクライナに伝わるろうけつ染めのエッグアート「ピサンキ」を作成し、ピサンキに寄せるウクライナの人々の思いと技術を学ぶ。また、創作活動を通じて異なる文化に触れることで、日本との文化の違いや共通点などを学び、多文化に興味を持つきっかけとする。	飯野夏実（ピサンキ作家、陶芸家）

4	芝久保	【共催事業】 親子おたのしみ企画 ドキ土器考古学～縄文時代に タイムスリップ～ ※教育部社会教育課との共催	1	令和5年2月19日 2月26日 日曜日 10時から12時 全2回	社会教育課と共催で行い、縄文人の暮らしや知恵を学び、体験することで、親子で同じテーマを共有する機会を提供する。	亀田直美（教育部社会教育課文化財係・学芸員）
5	谷戸	くらしを彩る講習会	1	①令和5年1月31日（火曜日） ②2月21日（火曜日） ③3月17日（金曜日） 10時から12時 3回	コロナ禍でロビーから会議室に場所を移して実施する。 多様な世代が参加しやすく、日々の暮らしに彩りを持てる内容で「ものづくり」講習を行う。	①荒道恵美（一般社団法人伝筆協会認定講師、パステルとアートインストラクター） ②南雲みさ（日本ハーバリウム協会認定講師） ③東海敬子（手芸愛好家）
6	谷戸	コンサート 不思議な楽器の演奏会 ～中世ヨーロッパの愉快的響き～	1	令和5年2月26日 日曜日 14時～16時	世代を問わず楽しめるコンサートを実施する。 演奏者が、バグパイプ、ハーディガーディ、中世の笛や太鼓など、珍しいが、素朴な温かい音色の中世ヨーロッパの楽器を一人何役で演奏する。	近藤治夫（中世音楽演奏家、ジョングルール・ボン・ミュージシャン主宰）
7	ひばりが丘	防災講座 マンションで首都直下地震を乗り越える	3	令和5年1月14日 1月28日 2月11日 土曜日 10時から12時 全3回	地域の防災課題と向き合い、受講者が公民館での学びを自分の所属するコミュニティでの実際の活動につなげ、地域防災力を高めていくための講座を、マンション管理組合などで活動する人々とともに実施する。	小野修平（ジョージ防災研究所代表、防災アドバイザー） ほか
8	ひばりが丘	【共催事業】 子どもの課題を考える講座 学校生活が苦手な子どもの進路を考える ～お子さんにあった「進路」とは～ ※「西東京市不登校情報ネットワーク ハートラインにしとうきょう」との共催	2 3	令和5年1月22日 日曜日 13時から16時	学校生活が苦手な子どもが社会での自立を目指すためにどのように進路を考えたら良いのか、具体的な事例や情報から選択できる指針とする。「西東京市不登校情報ネットワーク ハートラインにしとうきょう」と課題を共有し、悩んでいる親や子どもをサポートする場が地域にあることを知ってもらい、同じ経験をした先輩保護者ともつながるきっかけをつくる。	守矢俊一（NPO法人まほろび理事長）

9	ひばりが丘	第14回 ひばりが丘フェスティ	1 3 4	令和5年3月5日 日曜日 10時から16時（予定）	公民館を利用する市民団体に発表の場を提供することで、日頃の活動に対する意欲を高めるとともに、フェスティバルを創りあげるプロセスを通して、活動の幅を広げていく機会とし、地域住民が公民館利用者と一緒に発表や展示を楽しみ交流する場、学び合う場を支援する。	
10	保谷駅前	多文化共生講座 垣根のない明日のために	2 4	令和5年1月28日から 3月4日 土曜日 10時から12時 初回：12時30分まで 全5回	日本の難民受け入れの現状と、入管法の問題点や入管での人権侵害について学ぶ。難民として生活する悩みなどを当事者から学ぶ。劣悪な労働環境や人権侵害に苦しむ技能実習生の実態を、事例を交えながら学ぶ。また日本の外国人労働者受け入れ政策の問題点なども学ぶ。共に地域に生きる私たちができることや、地域につながる場があることの大切さを学ぶ。	周香織（「クルド人難民Mさんを支援する会」事務局） 鳥井一平：（NPO「移住連」代表理事） カディザ・ベゴム：（ロヒンギャ難民、ロヒンギャの子どもたちへの学習支援現地コーディネーター） 菅野冴花：（「認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会」国内事業担当）
11	保谷駅前	趣味講座 あなたの知らない川柳の世界	1	令和5年2月19日 3月5日 3月19日 日曜日 10時から12時 全3回	多様な川柳を鑑賞し、川柳とは何かを考え、その魅力を発見する機会とする。自分で撮影した写真を題材とした作句、連作、私家本制作など、川柳を長く深く楽しみ、発表を継続する手法を学ぶ。	暮田真名（「川柳句会こんとん」主宰）
12	保谷駅前	【共催事業】 地域講座 瞽女唄が聞こえる ※高橋家屋敷林保存会との共催	1 3	令和5年3月2日 木曜日 ①10時から12時 ②14時から16時 2回	・下保谷四丁目特別緑地保全地区「旧高橋家母屋」で実施し、参加者が地域にこのような施設がある事を知る機会とする。 ・保谷市史編纂委員会が編集出版した「下保谷の民俗」の中に「毎年3月頃になると大泉出身の瞽女が弟子を連れて下保谷に来ていた」という記述がある。その歴史の追体験として、誰もが学べる学習機会とする。	小関敦子（越後瞽女唄伝承者「萱森直子」に師事）